作図練習

（エクステリアプラン）

テキスト内にある下図の表記は、参照マニュアルの案内です。必要に合わせて参照してください。

詳細説明　P30～

テキストのP30～に載っています。

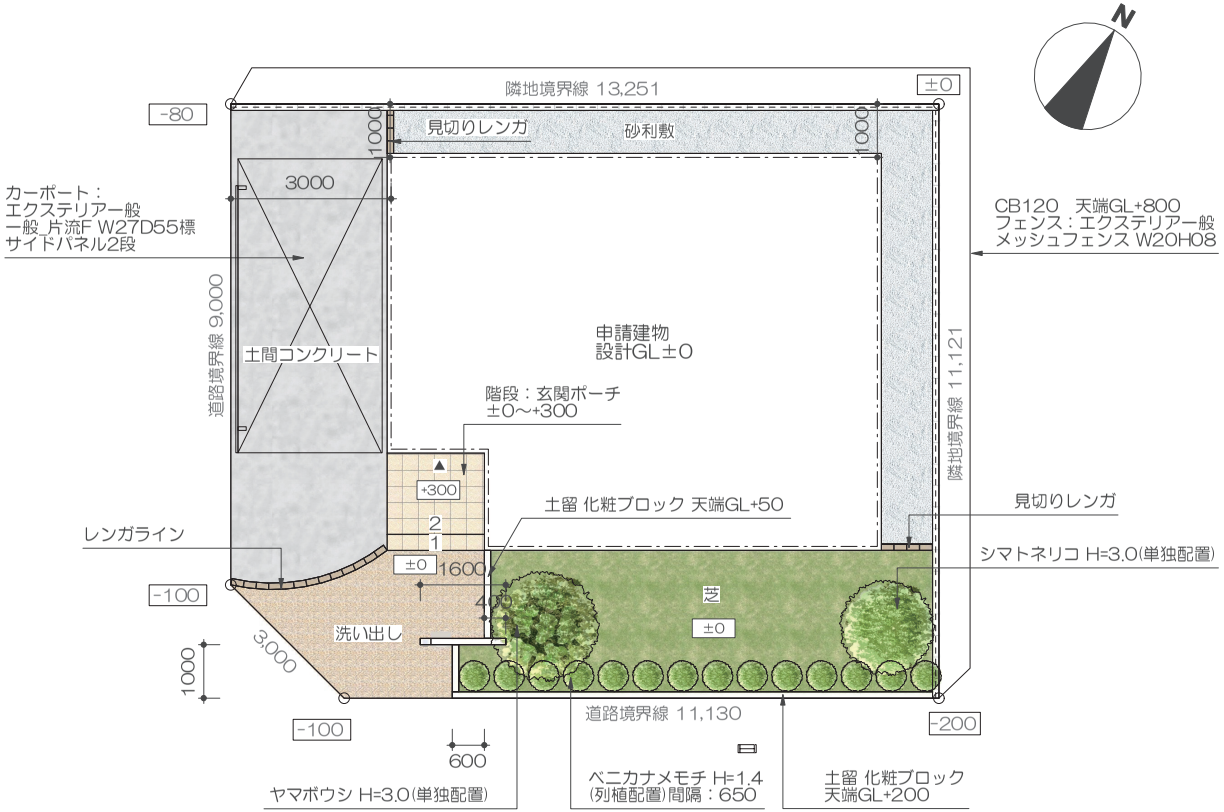
参考　[レベル設定]を検索

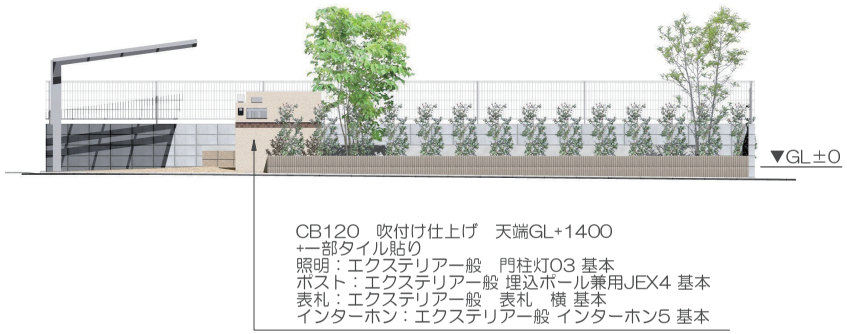
WEBマニュアルで[レベル設定]を検索すると、参照マニュアルが表示されます。

※O7CADではWEBマニュアル、CambridgeではDVDマニュアルに収録されています。

※実際の操作画面は予告なく変更になる場合がございます。

○○　○様邸　外構工事





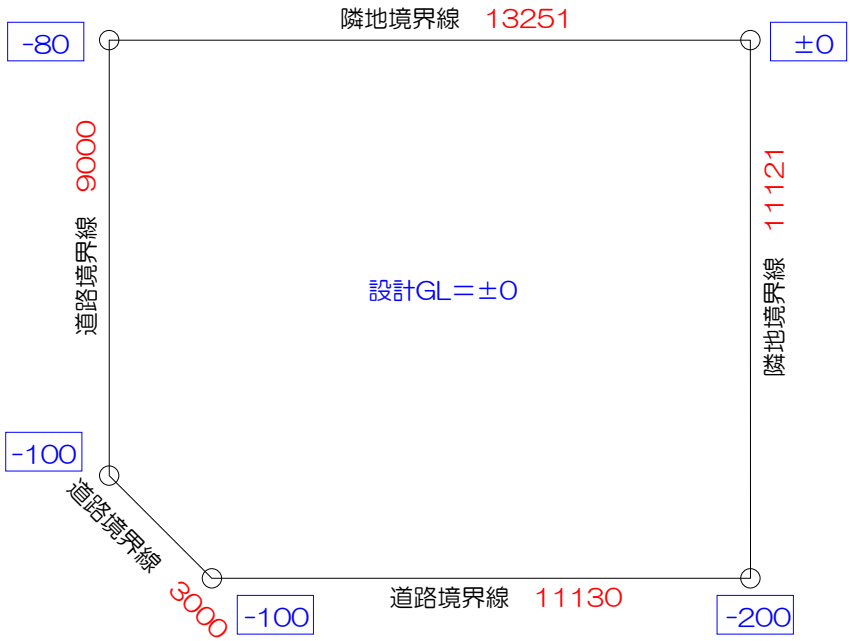
研修テキストプラン1

株式会社○○○○○

S=1：100　xxxx/xx/xx

敷地を描く

下の寸法を元に敷地を描いてみましょう。



レイヤは「敷地基礎」

敷地形状を作成するには、右の3つの方法があります。ここでは方法１の「敷地地型」を使って作成します。

方法1　敷地地型

「敷地地型」から敷地形状に近いものを選んで、敷地を作成します。

配置した後に、寸法や辺の角度を調整します。

テキスト　P43　敷地形状の調整

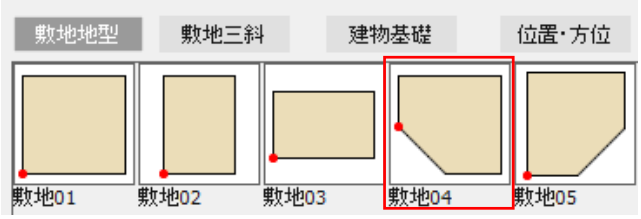
方法2　敷地三斜

Webマニュアル　[敷地三斜]を検索

方法3　座標入力・座標取込

Webマニュアル　[座標入力]を検索

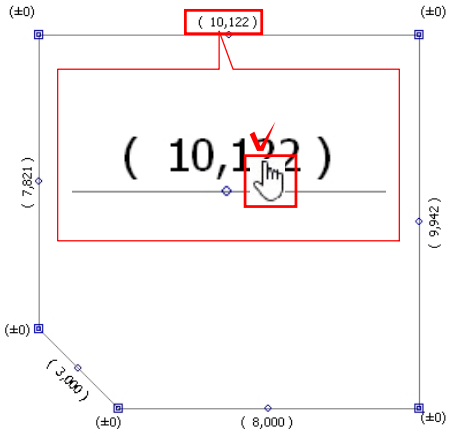
Webマニュアル　[座標取込]を検索



1　地型入力

敷地の形を入力します。

1-1　敷地形状に一番近い地型を、作業画面にドラッグします。

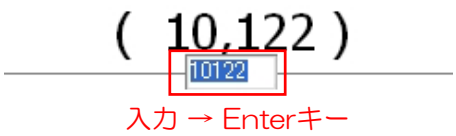


2　境界長さ設定

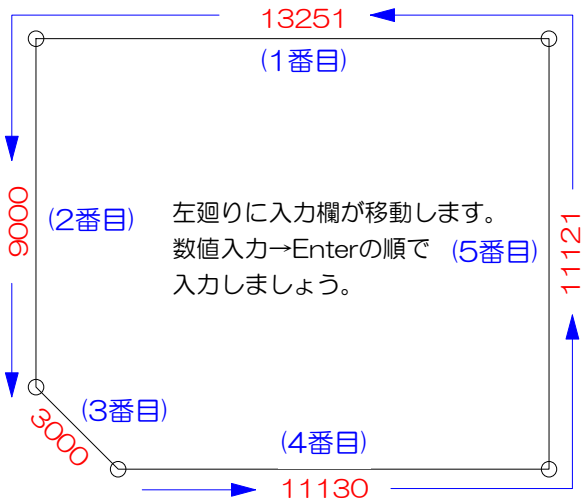
敷地境界の寸法を入力します。

建物に平行な辺または、水平・垂直にしたい辺から数値を指定します。
今回は上の境界線から始めます。

2-1　数値を入力したい辺の数値にカーソルをあわせ　になったらクリックします。



2-2　　内に数値を入力し、Enterキーを押して決定します。



2-3　左隣の辺に入力欄が移動するので、順に入力します。

途中で入力をやめてしまったり、右周りに入力しようとすると、形が歪んでしまうことがあります。

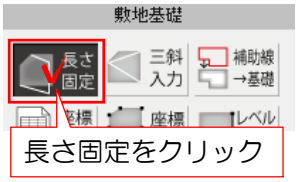
【入力する数値を間違えたときは・・・】

間違えた場合は、敷地の外をクリックして作業を中断し、敷地を消してもう一度始めからやり直しましょう。

【敷地形状の調整】

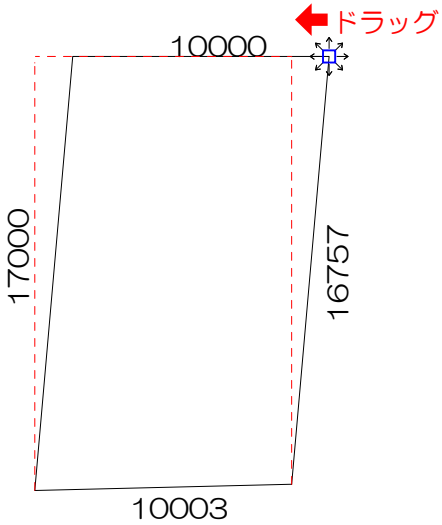
敷地地型で入力した敷地の角度は大体です。数値を入力する順番、配置した敷地形状の角度によって形が思ったようにできない事があります。
数値を入力して形が歪んでいる場合は、以下の方法で調整しましょう。

1-1

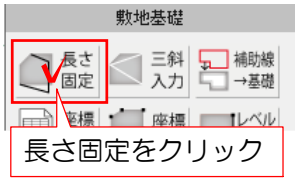


ボタンの色が黒っぽくなります。

1-2



1-3



ボタンの色が薄くなります。

方法1　長さ固定

入力した境界線の長さは変えずに、頂点を移動することで辺の角度を変えます。隣の点を押すようにして調整します。

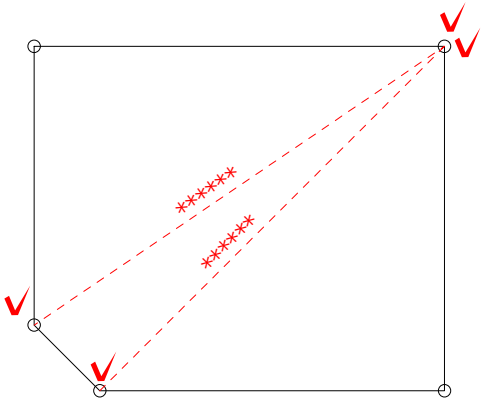
1-1　敷地基礎レイヤを選択し、画面右側の「長さ固定」をクリックします。

1-2　変形したい敷地の頂点にカーソルを合わせ、✥ になったらドラッグして形を調整します。

頂点を押すような感じで動かしましょう。

Shiftキーを押しながらドラッグすると、移動する点を水平・垂直にする事ができます。

1-3　調整が終わったら、「長さ固定」をクリックして終了です。



「三斜入力」をクリックし、対角をクリック。
数値を入力して形状を調整します。

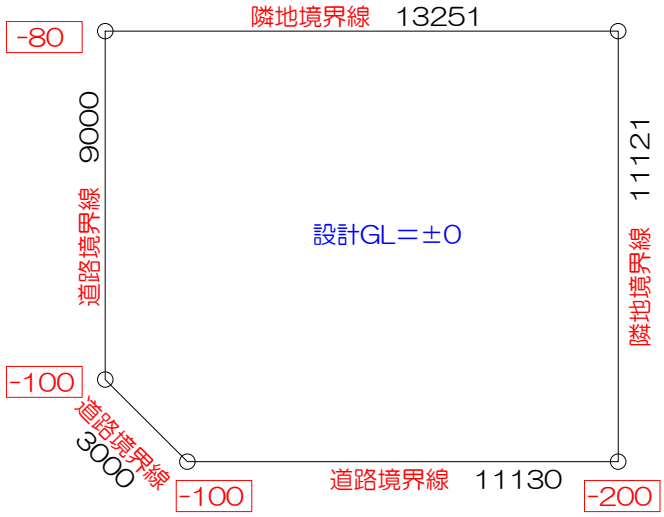
方法2　三斜入力

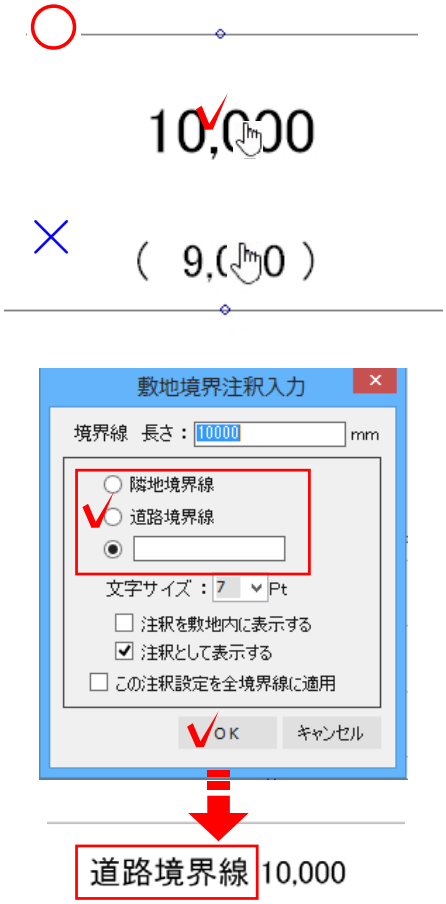
対角線を引いて三斜数値を入力することで、形状を調整します。対角線部分の長さがわかる測量図が必要です。

Webマニュアル [三斜入力]を検索

敷地の注釈とレベルを入れる

下の図を元に敷地の注釈とレベルをいれてみましょう。





1　敷地注釈の入力

「道路境界線」「敷地境界線」などの注釈を入力します。

1-1　注釈を入力したい辺の数値にカーソルをあわせ になったらクリックします。

数値に（）がついている時は注釈の設定ができません。長さを入力し、確定してから設定を行ってください。

1-2　入力したい注釈を選択し、OKをクリックして設定が完了します。

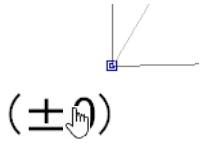
「隣地境界」「道路境界」以外の注釈を入力したい場合は に入力してください。

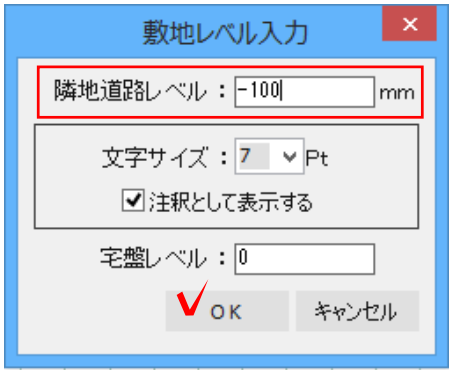
「この注釈設定を全境界に適用」で他の辺全てを同じ設定にすることができます。

【敷地の注釈を印刷するには・・・】

敷地の注釈は、注釈レイヤで「敷地注釈」ボタンを押すことで印刷できるようになります。
この時点では、まだ設定が終わっただけで印刷には出ません。

Webマニュアル　[敷地注釈]を検索





2　レベル(高低差)設定

敷地の高低差を入力します。

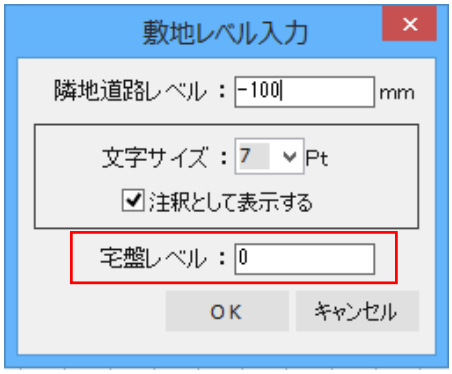
2-1　数値を入力したい頂点の数値にカーソルをあわせ になったらクリックします。

2-2　「隣地道路レベル」に数値を入力し、「OK」をクリックします。

O7CADのレベル基準は「建物を建てる高さ=GL±0」です。

2-3　各頂点にレベルを入力しましょう。（レベルが±0の場合は入力する必要はありません。）

【道路の「BM±0」を基準にしたいときは・・・】

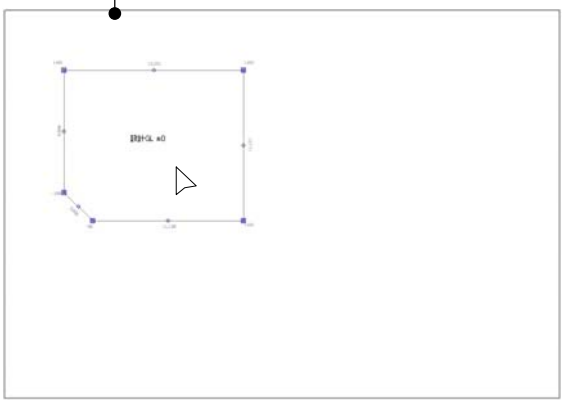


敷地の頂点レベルをクリックし、敷地レベル入力画面で「宅盤レベル」に「100」と入力すると、建物を建てる高さが「+100」となります。

道路を±0としたい場合はここで調整しましょう。

Webマニュアル ［宅盤レベル］を検索

グレーの枠が用紙サイズです。



3　敷地レイアウト

敷地を用紙内に配置します。

3-1　用紙枠内に敷地が収まるようにドラッグで位置を調整します。

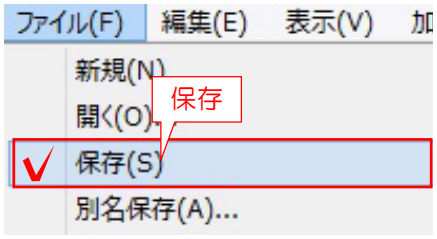
ドラッグする時は敷地の中心辺りを押さえましょう。

図面を描いた最後に用紙の位置を調節することができます。ここではだいたいの位置を決めておきましょう。

保存する

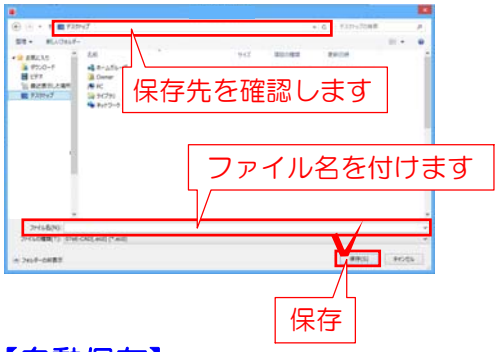
ある程度図形ができたら保存しましょう。

1　保存



敷地が描けたらデータを保存します。

1-1　「ファイル」メニューから「保存」をクリックします。



1-2　保存先を確認して、ファイル名を入力します。

名前を「練習」と付けておきましょう。

1-3　「保存」をクリックして完了です。

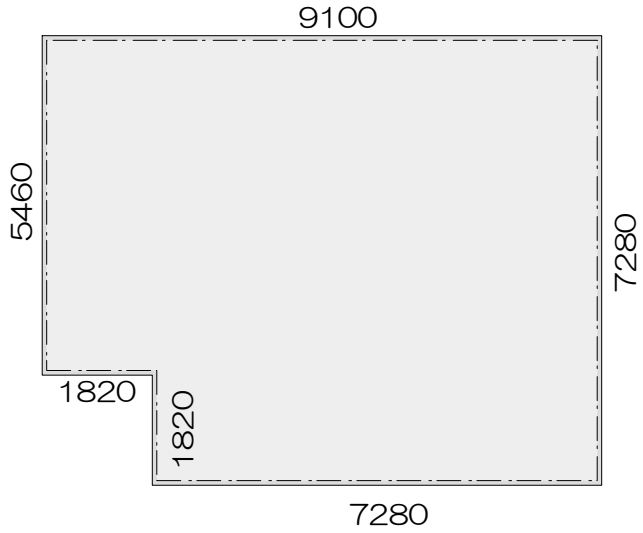
【自動保存】

O7CADは10分おきに「保存しますか？」と表示するように設定されています。初回はファイル名をつけて保存し、以後は上書きで保存されます。
作図中は保存を忘れやすくなっていますので、気が付いたときに保存しましょう。

Webマニュアル　[環境設定]を検索

建物基礎を描く

下の寸法を元に建物基礎を描いてみましょう。ここでは「方法1」で作成します。



方法1　スタンプ

シンプルな形状の基礎を作成する時に使用します。スタンプ画面の建物基礎を使って寸法を入力します。

方法2　補助線→基礎

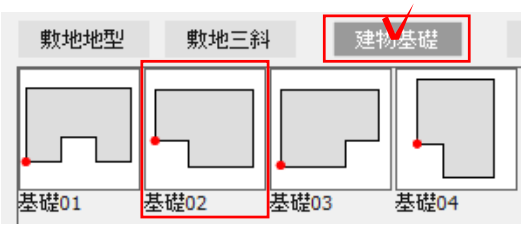
補助線を使って基礎の形を作り、建物基礎に変換します。袖壁や独立基礎などがある時、建物の形状が複雑な時に使用します。

テキスト　P49　補助線→基礎

Webマニュアル　[補助線から基礎に変換]で検索

レイヤは「敷地基礎」

方法1　スタンプ



1　建物基礎入力

建物基礎の形を入力します。

1-1　建物基礎をクリックし、建物基礎の形状に一番近い型を、作業画面にドラッグします。

一番長い辺から入力します。
今回は上の辺から始めます。

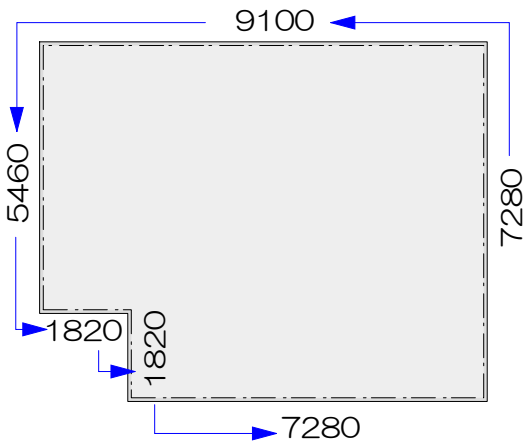
入力 → Enterキー

2　建物基礎設定

建物基礎の寸法を入力します。

2-1　数値を入力したい辺の数値にカーソルをあわせ になったらクリックします。

2-2　 内に数値を入力し、Enterキーを押して決定します。



2-3　左隣の辺に入力欄が移動するので、順に入力していきます。

各辺に入力すると左図のようになります。

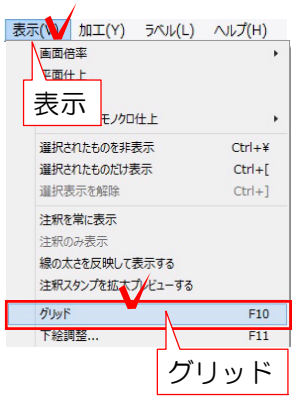
途中で入力をやめてしまったり、右周りに入力しようとすると、形が歪んでしまうことがあります。

【入力する数値を間違えたときは・・・】

間違えた場合は、基礎の外をクリックして作業を中断し、基礎を消してもう一度始めからやり直しましょう。

【グリッドの表示】

建物基礎を描き終えたら、**グリッド**（用紙範囲内に表示されている格子状のマス目）を**非表示**にしましょう。外構を描くときはグリッドは非表示の方が描きやすくなります。



1　グリッドを非表示にする

1-1　「表示」メニューの「グリッド」をクリックします。

画面上に表示されていたグリッドが見えなくなります。もう一度同じ作業をすると、グリッドが表示されます。

レイヤは
「敷地基礎」と「補助線」

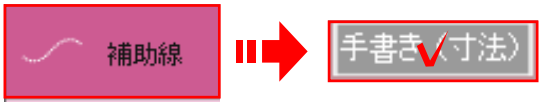
方法2　補助線→基礎

今回は作業しません。先に進みましょう。

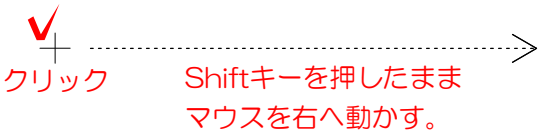
補助線を使って基礎の形を作り、建物基礎に変換します。袖壁や独立基礎がある時、建物の形状が複雑な時に使用します。

1　補助線入力

建物基礎の形に補助線を描きます。

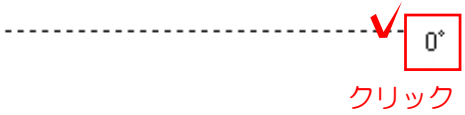


1-1　レイヤを補助線にし、手書き（寸法）をクリックします。



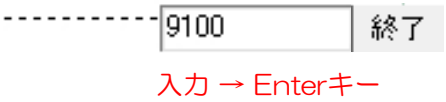
1-2　画面上でクリックし、Shiftキーを押したまま右へマウスを動かします。

この時、マウスのボタンは離した状態で右へ動かしましょう。Shiftキーはしっかり押さえておきましょう。



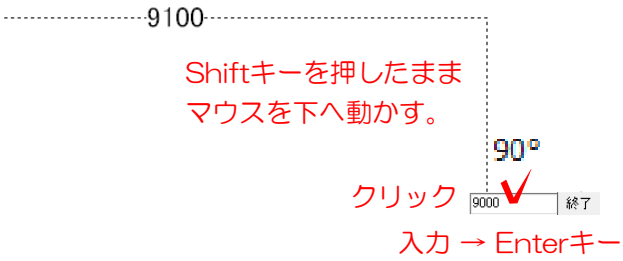
1-3　点線がある程度の長さになったら、「0°」と表示が出ている状態でクリックします。

Shiftキーはクリックしてから離します。



1-4　[　　]が表示されたら、辺の長さを入力してEnterキーを押します。

1-5　マウスを動かすと次の辺の角度指定ができる状態になっているので、Shiftキーを押したまま下へマウスを動かします。



1-6　点線がある程度の長さになったら、「90°」と表示が出ている状態でクリックします。

1-7　[　　]が表示されたら、辺の長さを入力してEnterキーを押します。

1-8　この繰り返しで建物の寸法を入力し、基礎の形の補助線を描きます。

【辺の寸法や角度を間違えたときは・・・】

数値を入力してEnterキーを押した後の状態（マウスを動かすと点線がついてくる）で「Ctrlキー+Z」を押します。
作業を1つ戻ることができるので、再度入力しなおしましょう。

【袖壁、独立基礎があるときは・・・】

袖壁、独立基礎は補助線を部分的に追加して描きます。

Webマニュアル　[基礎に袖壁を作る方法]で検索

2　建物基礎に変換

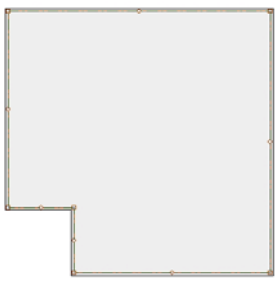
作成した補助線を基礎に変換します。

2-1　基礎の形に描いた補助線を選択し、画面右上の「補助線→基礎」をクリックします。

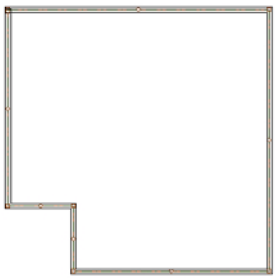
補助線と同じ場所にグレーの基礎ができます。

【作成された基礎の内側が白くなったときは・・・】

○

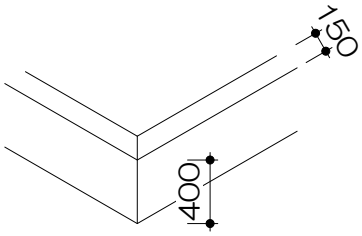


×



元の補助線の角に隙間ができていると内側が白い基礎ができます。補助線の隙間ができないように描き直して基礎に変換しましょう。

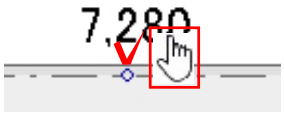
【基礎の初期設定】

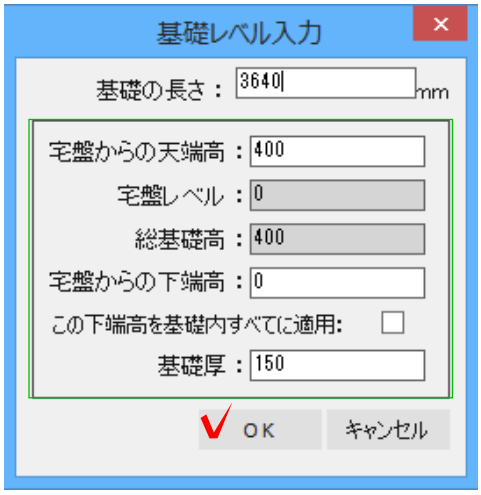


基礎の初期設定は
基礎の高さ：設計GLから+400
基礎の厚み：150
深基礎：なし
となっています。必要があれば設定を変更しましょう。

【深基礎にしたいときは・・・】

プランによっては基礎を深く（設計GLよりも下から基礎ができている）したい場合があります。上記の初期設定を変更して深基礎にする事ができます。





1　深基礎設定

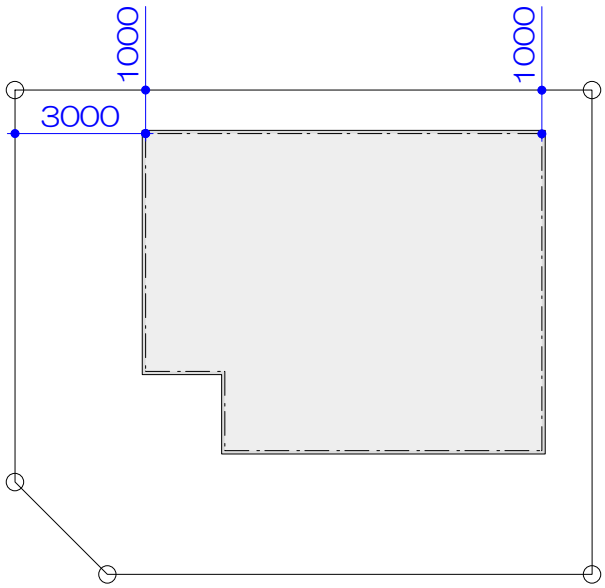
1-1　数値を入力したい辺の数値にマウスをあわせ になったらクリックします。

1-2　変更したい項目を設定し、OKをクリックして設定が完了します。

宅盤からの天端高：
　GLからの基礎の高さ
宅盤レベル：
　ここでは変更できません。
　敷地のレベルで設定します。
総基礎高：
　自動表示のため設定できません。
宅盤からの下端高：
　GLから下の基礎高さ。「-」は不要。
基礎厚：基礎の厚み
この基礎設定を全基礎に適用：
　✓を入れると全ての辺に適用されます。

敷地に基礎を配置する

下の寸法を元に建物基礎を配置してみましょう。



敷地に基礎を配置する方法

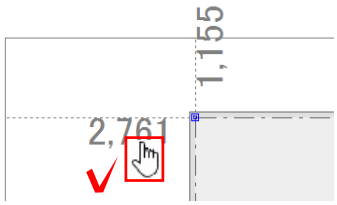
基礎を敷地内に配置すると、基礎の各頂点から敷地境界までの距離が表示されます。この数値を調整して配置します。

作図をする時の基本として基礎は水平・垂直に配置します。基礎の角度に合わせて敷地を回転などで調整しましょう。

基礎が斜めになると、アプローチや玄関ポーチも斜めになり、設定などが必ず必要になります。作図の手間を減らすには基礎を水平・垂直に配置することがポイントです。

レイヤは「敷地基礎」

1　配置寸法入力



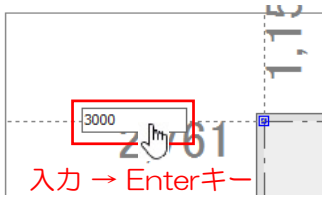
建物基礎の配置寸法を入力します。

1-1　レイヤを「**敷地基礎**」にします。

1-2　数値を指定したい数字にカーソルを合わせ、 になったらクリックします。

【数値が表示されないときは・・・】

下記の時は境界までの数値が表示されません。
・建物基礎が敷地からはみ出している　→敷地の中に移動しましょう。
・建物基礎を選択していない　→建物基礎の内側（グレーの部分）をクリックしましょう。
・敷地と建物基礎が選択されている　→建物基礎だけを選択しましょう。

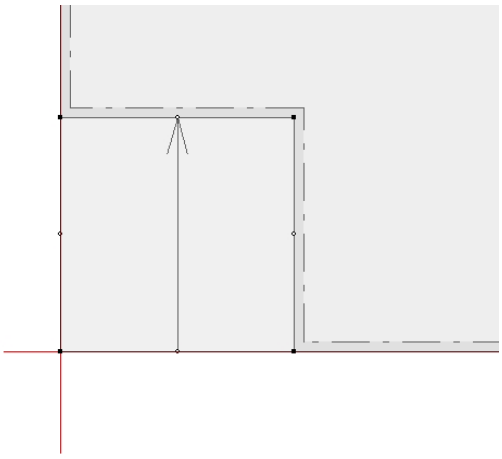


1-3　 内に数値を入力し、Enterキーを押して決定します。

基礎が指定した数値の位置へ移動します。
配置ができたら保存しましょう。

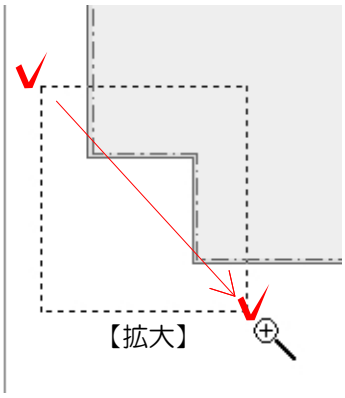
玄関ポーチを配置する

下の図を元に玄関ポーチを配置しましょう。



玄関ポーチはユニットの「階段」を使用します。

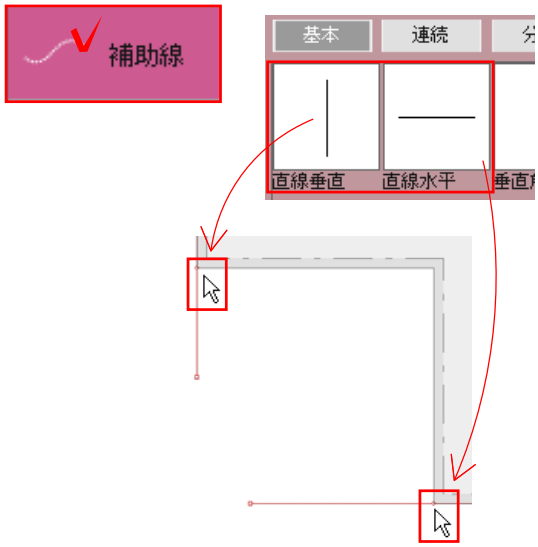
レイヤは
「ユニット」と「補助線」



1　補助線入力

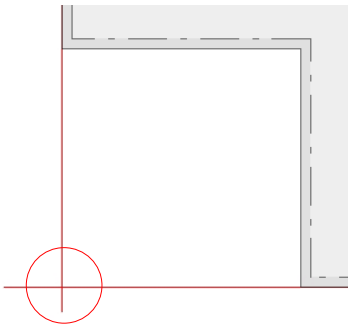
玄関ポーチを配置する為の補助線を引きます。

1-1　玄関ポーチが大きく見えるように**拡大**します。



1-2　レイヤを「補助線」にし、基本の「直線垂直」「直線水平」をそれぞれ建物基礎の角に配置します。

補助線を配置する際は、基礎の角にカーソルを合わせて配置しましょう。



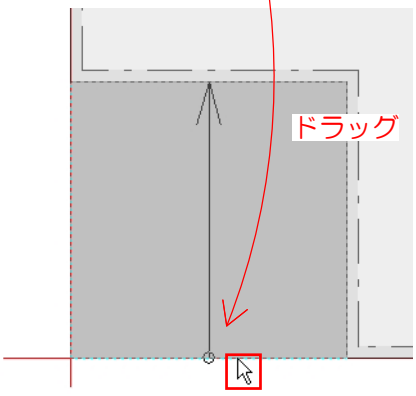
交差

左図の状態に補助線を調整します。

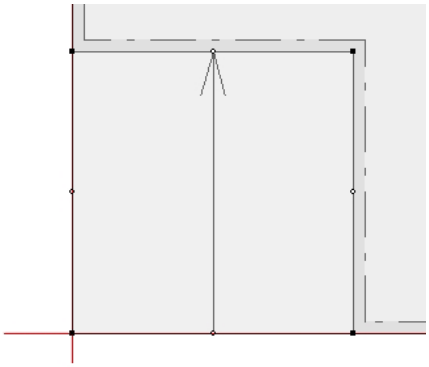
1-3　配置した補助線が短い場合は、マウスを使って伸ばしましょう。

端点は左図のようにピッタリのところで止めずに**交差**している状態にします。

2　階段配置



上りはじめの側にマウスを合わせる



玄関ポーチは階段を使用します。

2-1　レイヤを「**ユニット**」にします。

2-2　画面下の階段ユニットから「タイル300角」を補助線の内側へドラッグします。この時**矢印が階段を上る方向を向く**ようにしてマウスをはなします。

階段の１段目のラインにマウスを合わせると、上る方向へ矢印が伸びます。

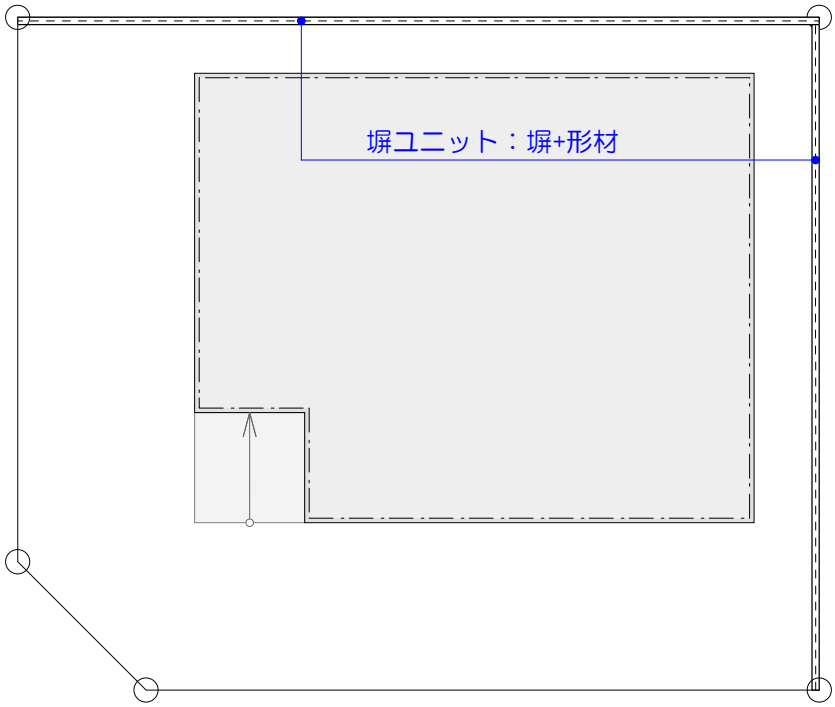
矢印の向きは"上がる"方向を指します。階段が高い方向に向かって矢印が伸びるようにしましょう。

階段の配置ができました。
他の図形を配置した後に設定をします。

保存しましょう。

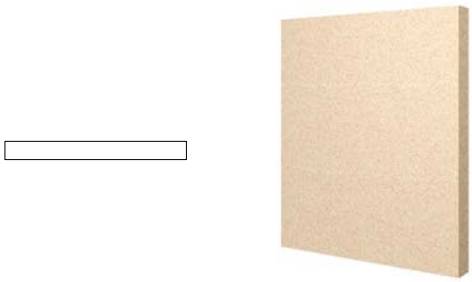
塀を配置する

下の図を元に塀を配置しましょう。

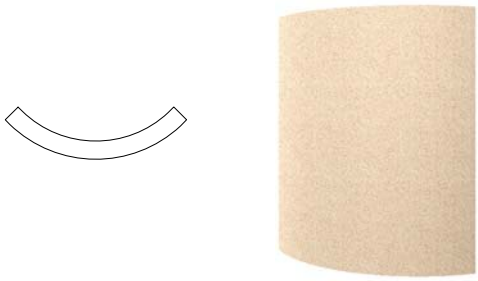


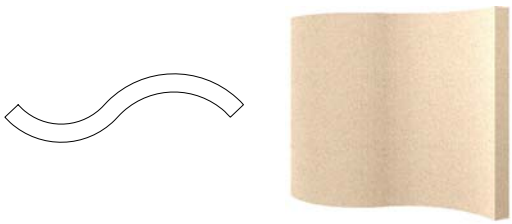
レイヤは
「ユニット」と「補助線」

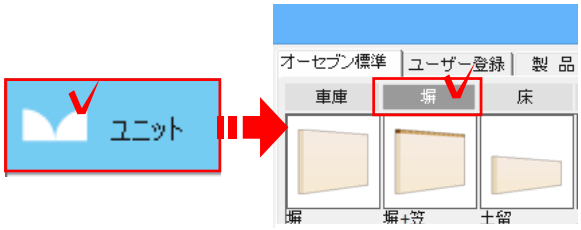
塀は「**ユニットレイヤ**」で配置します。
塀は図形に吸着します。配置する前に吸着させる為の補助線を引いておきます。



いろいろな形の補助線を作れば、塀をその形にする事ができます。







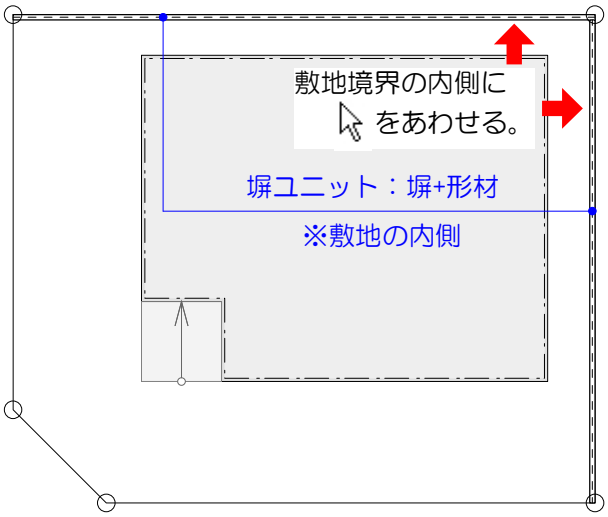
1　ユニット配置

敷地境界塀を配置します。

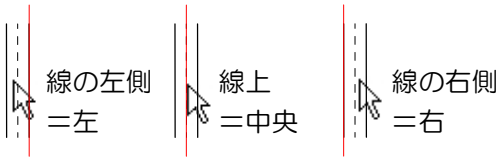
道路境界・隣地境界から配置していきましょう。

塀を配置します。

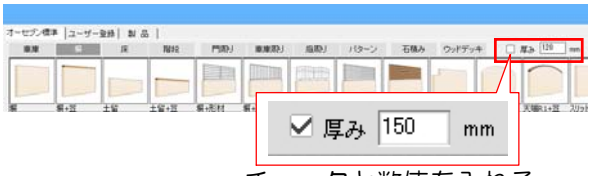
1-1　レイヤを「ユニット」、画面下のスタンプ画面で「塀」を選択し、「塀+形材」を上と右の敷地境界の内側へドラッグします。



左図を参考に入力しましょう。この時、敷地境界の内側・外側・中心の位置を確認しましょう。マウスを線に合わせた位置で塀の配置が決まります。



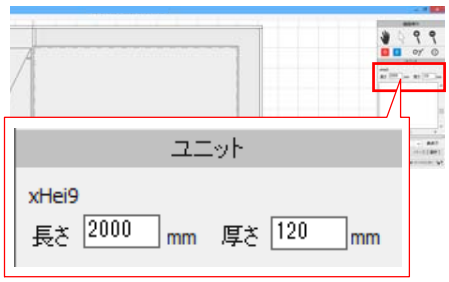
【塀の厚み】



チェックと数値を入れる

塀は通常、120の厚みで配置されるように設定しています。

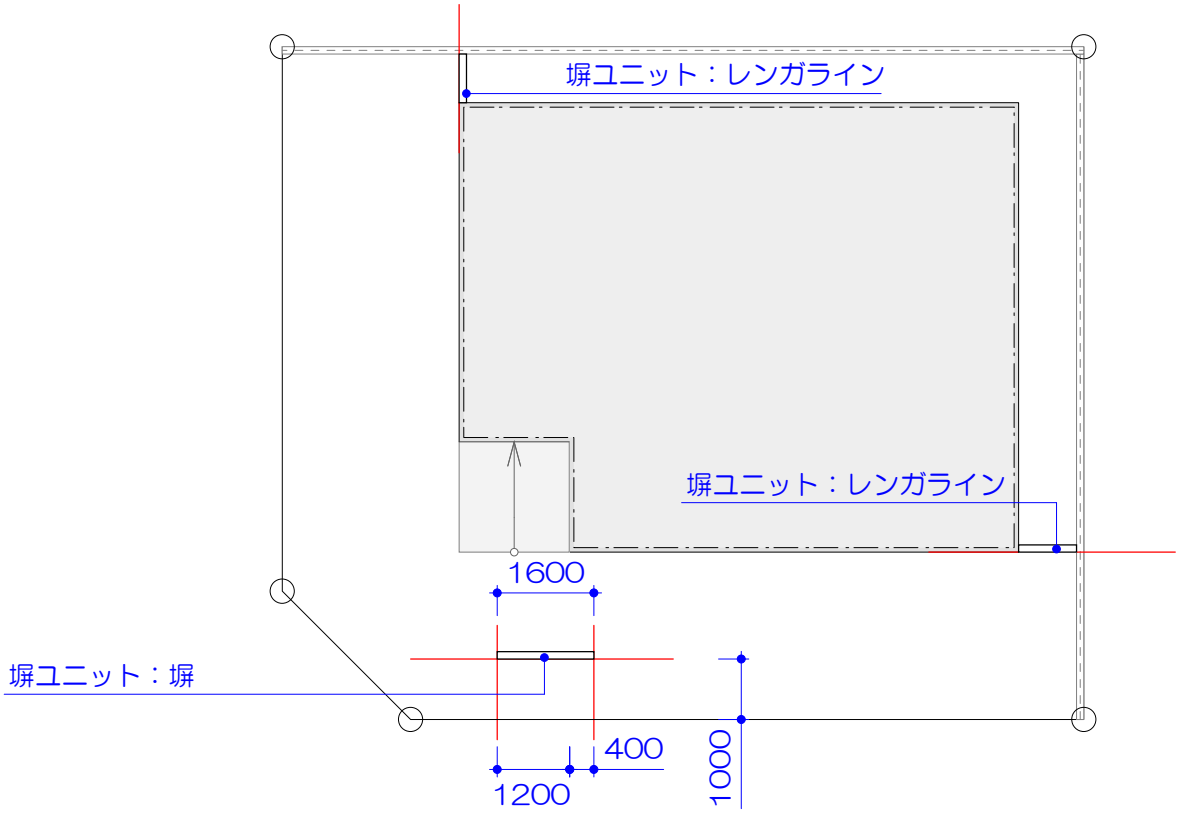
ブロック厚を100や150、200などに変更したい場合は、塀ユニットの上にある「厚み」にチェックと数値を入れてから配置します。

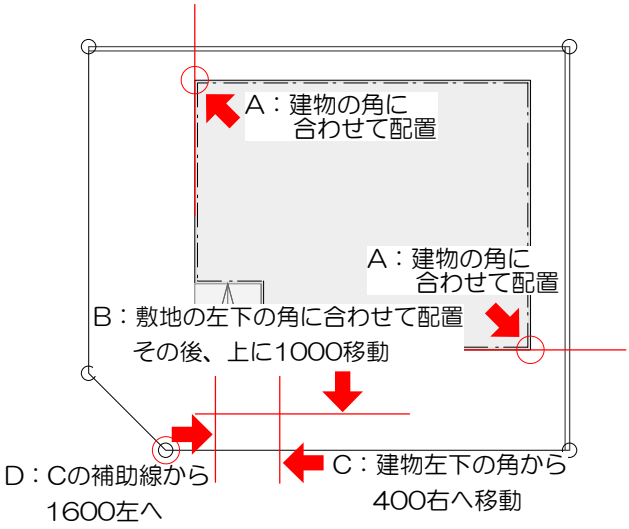


配置後に数値を変更することもできます。

塀を配置後、画面右上のユニットで厚みや長さを変更することもできます。

他の塀も配置しましょう。



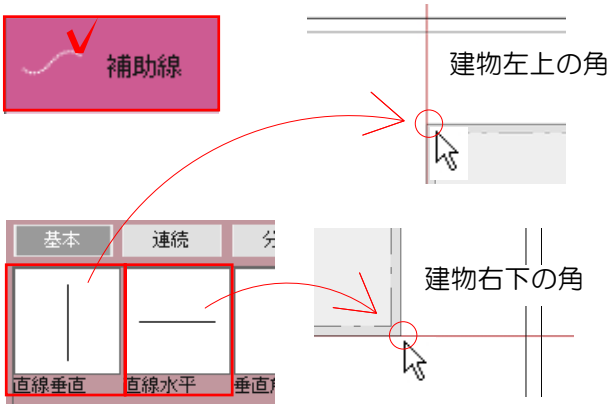


2　補助線配置

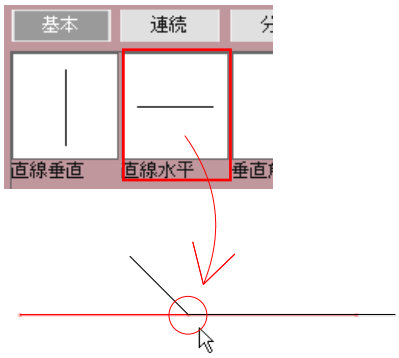
塀を配置する為の補助線を配置します。

画面の拡大、縮小をして敷地全体が見えるようにしましょう。

レイヤを「補助線」にし、A～Dを配置します。

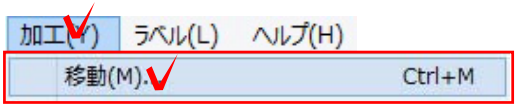


2-1　Aの線(2ヶ所)を配置します。レイヤを「補助線」にし、基本の「直線垂直」「直線水平」を建物基礎の角に の先を合わせて配置します。

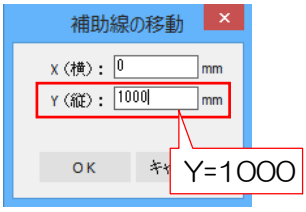


2-2　Bの線を配置します。2-1同様に基本の「直線水平」を敷地の左下の角に合わせて配置します。

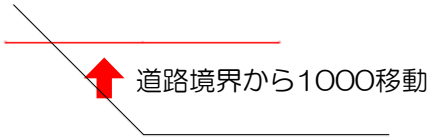
Bの補助線は道路境界から上に1000の位置にあります。だいたいの位置へ補助線を配置すると、どこが1000の位置かわかりません。まず、基準となる道路境界線に合わせて補助線を配置しましょう。



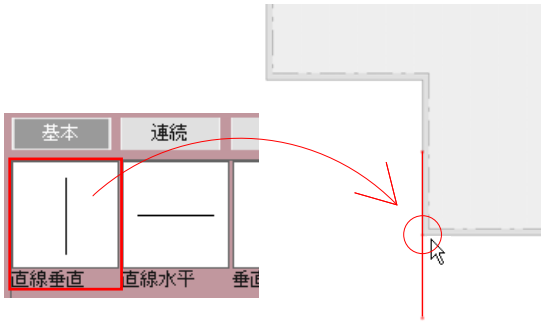
2-3　配置した補助線が選択された状態で「加工」メニューから「移動」をクリックし移動させたい数値を入力します。



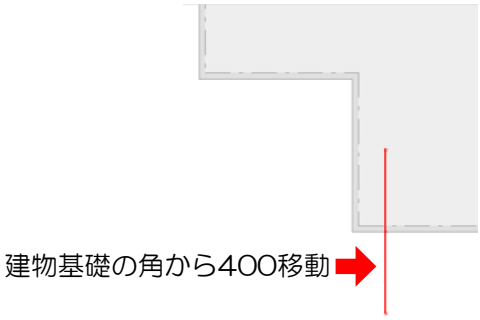
2-4　道路境界線から上に1000なので「Y=1000」と入力します。

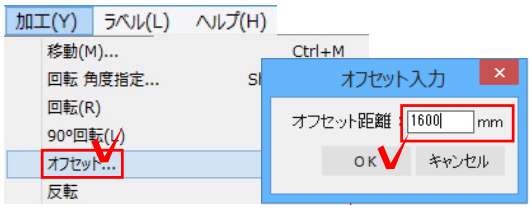


2-5　「OK」を押すと、補助線が道路境界線の1000上に移動します。

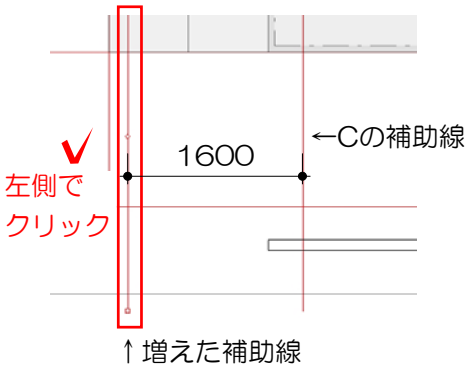


2-6　Cの線を配置します。基本の「直線垂直」を建物基礎の角に の先を合わせて配置をし、加工メニューの移動で右へ400移動します。





2-7　Dの線を配置します。Cの補助線を選択し、加工メニューのオフセットで［1600］と入力し、OKを押します。



2-8　Cの補助線の左側でクリックすると左へ1600の位置に補助線が増えます。

2-9　各補助線を前ページのサンプルのように長さを調整します。

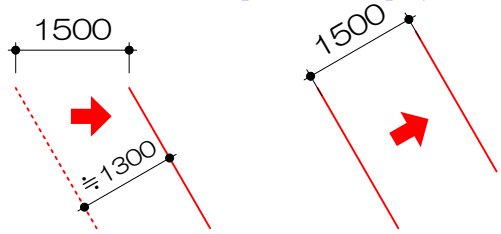
【移動とオフセットの違い】

移動は選択した図形を動かす機能です。
オフセットは選択した補助線を複製し、指定した距離の位置へ動かす機能です。
この違いを覚えておきましょう。

以下は補助線を選択して移動した場合と、オフセットをした場合の巾のとり方です。

・斜めの直線に1500巾をつけた場合

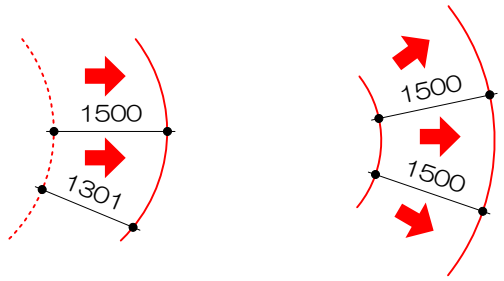
【移動】巾は≒1300　【オフセット】巾は1500



【移動】
水平・垂直方向に移動します。Rや斜めの場合、指定した数値よりも巾が狭かったり、場所によって巾が異なります。

・R補助線に1500巾をつけた場合

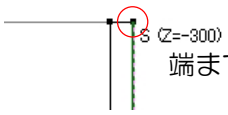
【移動】巾は不定　【オフセット】巾は1500



【オフセット】
補助線がどんな角度、形状であっても一定の巾をとります。元の補助線が残るので、アプローチを作る時などに使用します。

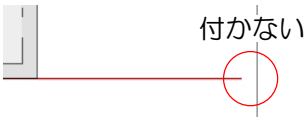
【塀が途中で止まってしまうときは・・・】

(1)　配置した塀を端まで伸ばす。



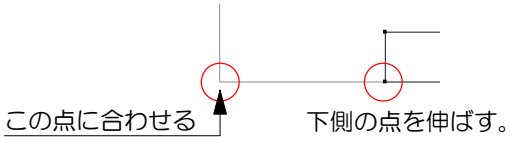
端まで塀を伸ばす

(2)　補助線を短くして境界に付かないようにしてから塀を入れる。

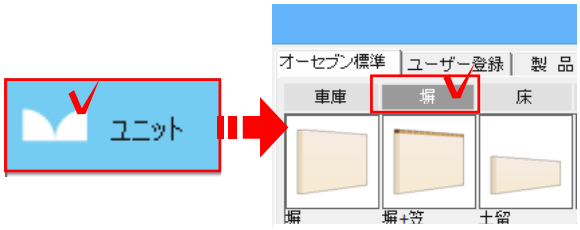


塀を配置した時に敷地境界の端まで塀が伸びない時は、塀が止まったところに補助線が交わっている時です。左記のどちらかの方法で調整しましょう。

※ 伸ばす場合は、合わせたい点がある側の塀の角を動かしましょう。



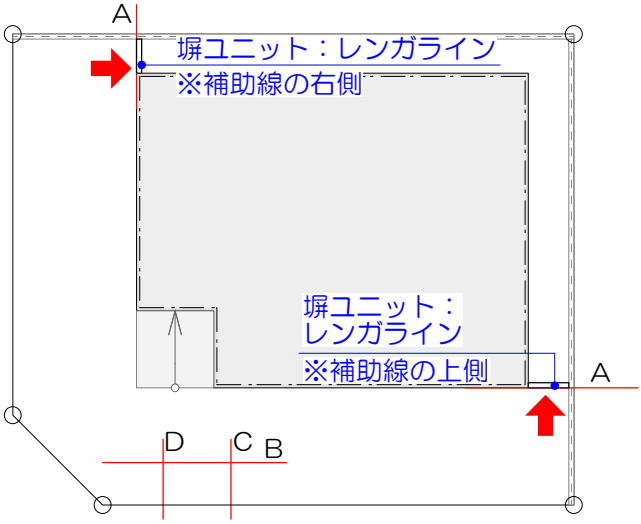
※(1)の方法は、塀が直線の場合に使用できます。
曲線や、結合した補助線、手描きで描いた補助線の場合は、切断されてしまう補助線や図形を避けて、(2)のような状態で塀を入れましょう。



3　ユニット配置

A～Dの補助線に塀を配置します。

レンガラインと塀を配置します。

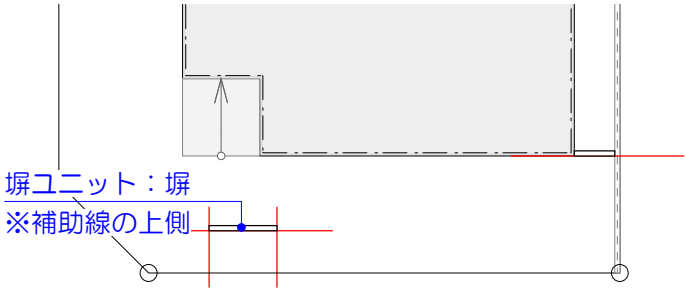


レンガライン：
補助線の右側と上側に をあわせる。

3-1　レイヤを「ユニット」、画面下のスタンプ画面で「塀」を選択し、「レンガライン」を左上と右下の補助線へドラッグします。

左図を参考に入力しましょう。この時、補助線のどちら側についているか？確認しましょう。マウスを離す時の位置に塀が配置されます。

3-2　同様に「塀」を左図のように補助線の上側へドラッグします。



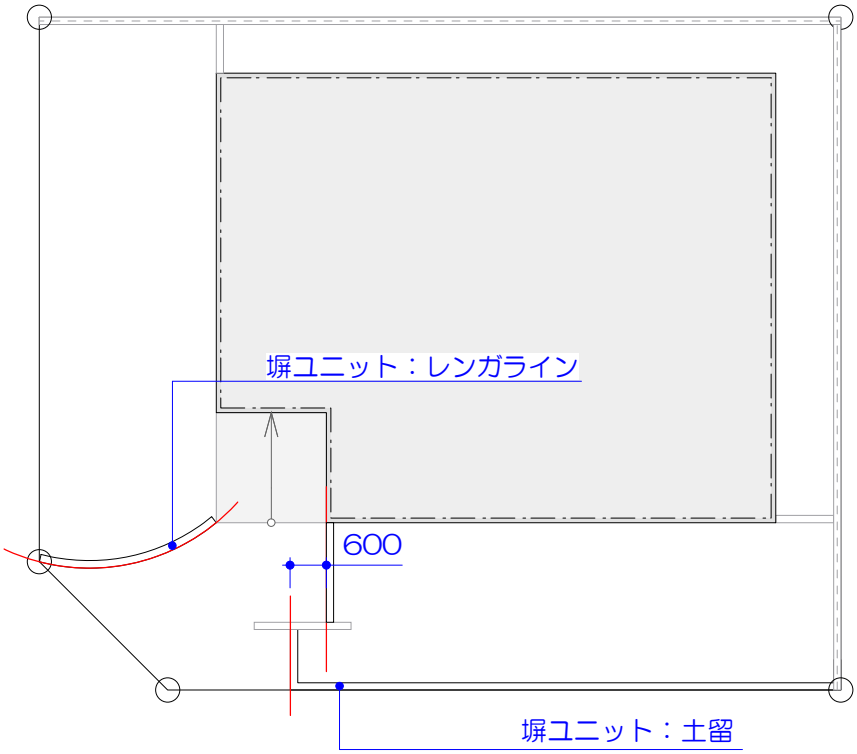
塀：補助線の上側に をあわせる。
補助線が縦の補助線より短い場合は、横の補助線の右端をShiftキーを押しながら上図のように延ばしましょう。

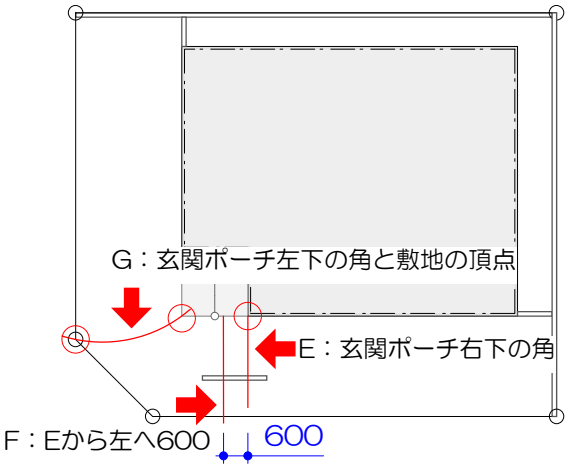
左図を参考に入力しましょう。この時、補助線のどちら側についているか？確認しましょう。マウスを離す時の位置に塀が配置されます。

補助線を延長させる場合は以下の手順で延ばします。
補助線を選択＞端点をクリック＞Shiftキーを押したままマウスを移動＞延ばしたいところでクリック＞Shiftキーを離す。
※Shiftキーを押している間、補助線は延長線上に固定されています。

B・C・Dの補助線を削除しておくと次の作業がしやすくなります。

レンガラインと土留の塀を入れてみましょう。



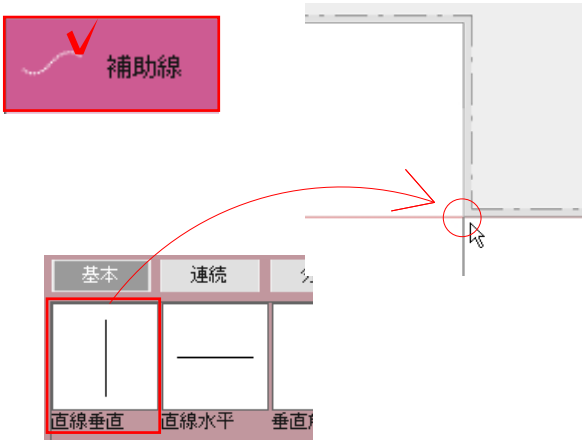


4　補助線配置

レンガラインと土留の塀を配置する為の補助線を配置します。

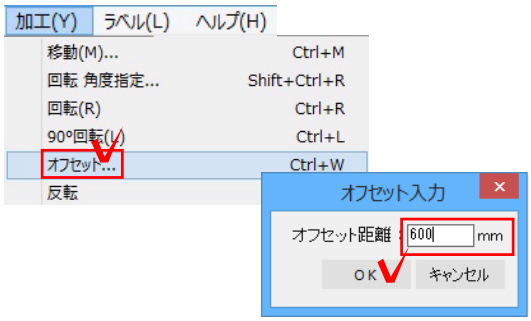
画面の拡大、縮小をしてアプローチ周辺が見えやすいようにしましょう。

レイヤを「補助線」にし、E～Gを配置します。



すでに引いた補助線が残っている場合は4-1の作業は必要ありません。

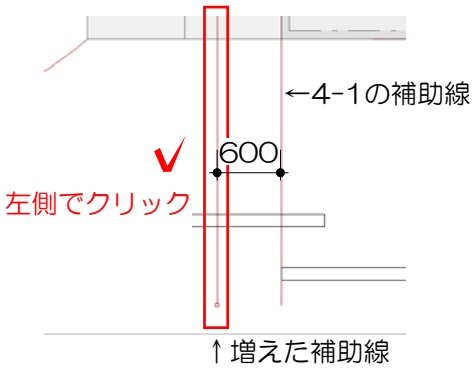
4-1　EとFの線を配置します。レイヤを「補助線」にし、基本の「直線垂直」を玄関ポーチの右下の角に の先を合わせて配置します。

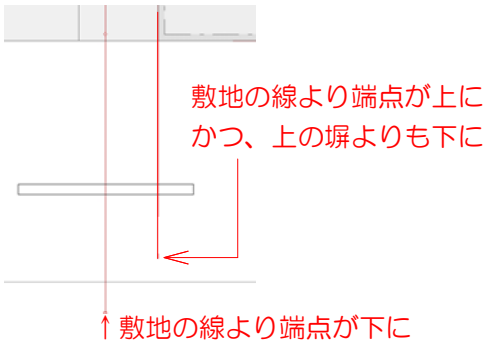


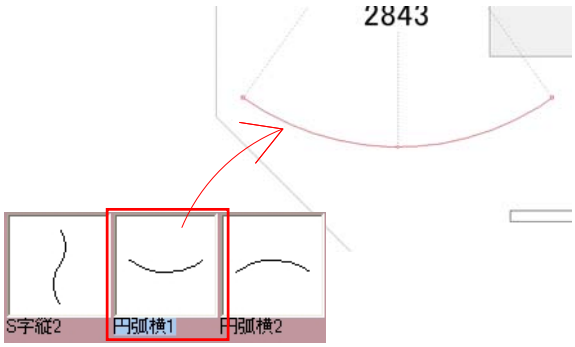
4-2　1で引いた補助線を選択した状態で、加工メニューのオフセットで、［600］と入力し、OKを押します。

4-3　選択している補助線の左側でクリックすると左へ600の位置に補助線が増えます。

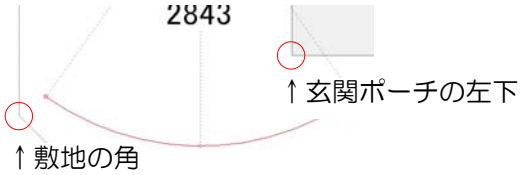
4-4　補助線を下図のように長さを調整します。



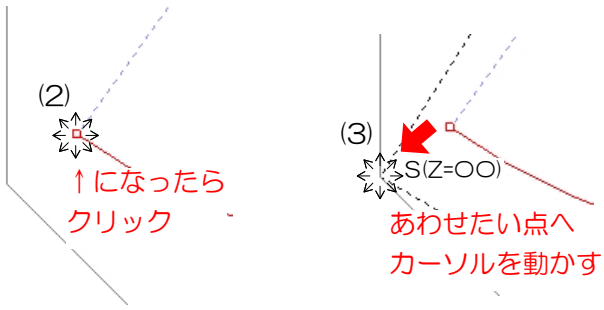




4-5　Gの線を配置します。「円弧横1」を玄関ポーチの左下辺りの適当な位置に配置します。



4-6　配置した補助線の左端を敷地の角に、補助線の右端を玄関ポーチの左下に合わせて変形します。



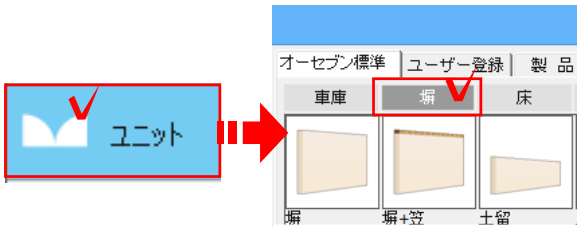
【変形の手順】

(1)補助線をクリックし、端点に□がついたのを確認。

(2)カーソルを端点に近づけ、カーソルが✛になったらクリック

(3)あわせたい点へカーソルを動かし、カーソルにS(Z=OO)が出たらクリック

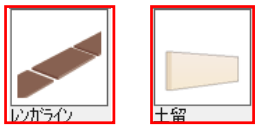
4-7　円弧の中央の○にカーソルを近づけ ✥ になったらドラッグして、丸みを調節します。



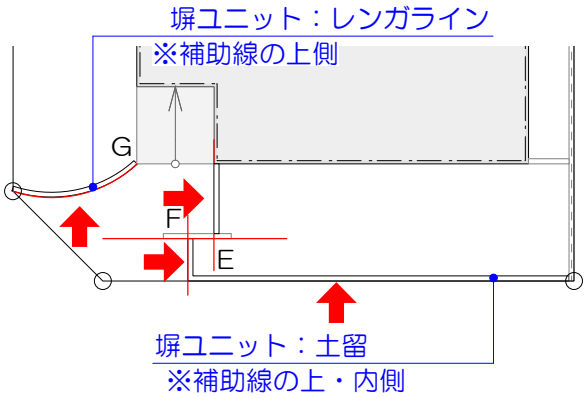
5　ユニット配置

E～Gの補助線に塀を配置します。

土留の塀とレンガラインを配置します。

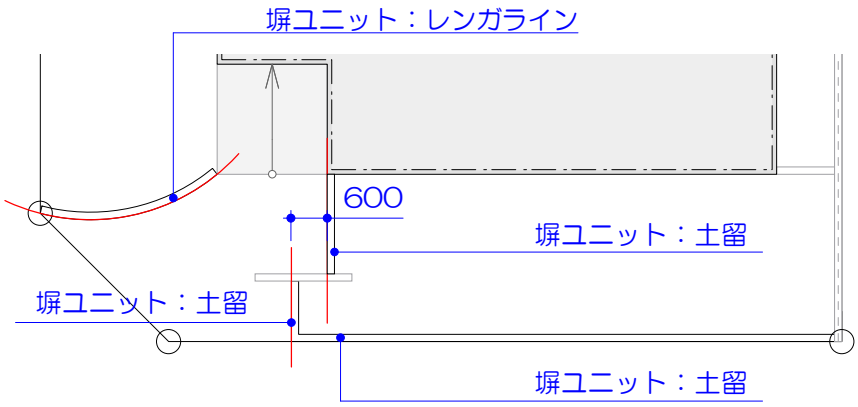


5-1　レイヤを「ユニット」、画面下のスタンプ画面で「塀」を選択し、「レンガライン」「土留」をE～Gの補助線へドラッグします。



左図を参考に入力しましょう。この時、補助線のどちら側についているか？確認しましょう。マウスを離す時の位置に塀が配置されます。

"レンガライン"は高さが10
"レンガ見切"は高さが80あります。

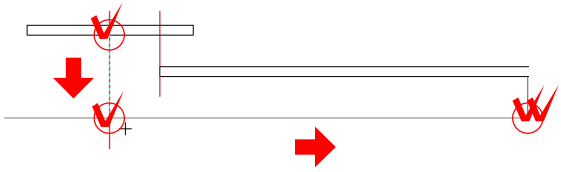


左図のように
土留の塀とレンガラインが配置されました。

L字やコの字型に塀を作成するには次ページを参照してください。

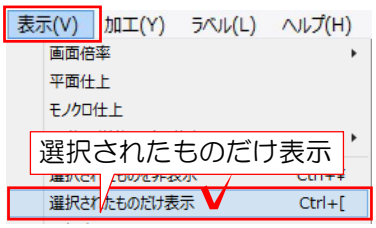
【L字やコの字の塀をつくるには・・・】

(1)カーソルが＋になっています。
＋の中心と角を合わせてクリック。



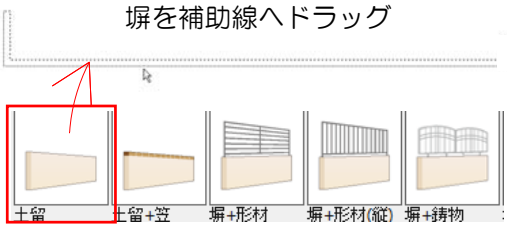
ダブルクリックで作業が終了します。

(2)



(3)

塀を補助線へドラッグ



塀は図形の点から点までを認識し、そこで止まるようにできています。

前ページの土留めの塀のように2方向にL字の塀を入れる時は、直線の塀を各辺に入れるのが基本ですが、補助線の「手書き」を使えば、L字やコの字型の１つの塀を作成する事ができます。

(1)補助線レイヤの「手書き」で作成したい塀の形を描きます。

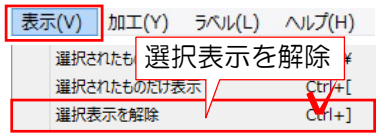
(2)描いた補助線を選択した状態で、表示メニューの「選択されたものだけ表示」をクリックします。

選択した補助線だけが表示されます。
他の塀や敷地が表示されている場合は、再度補助線を選択してやり直しましょう。

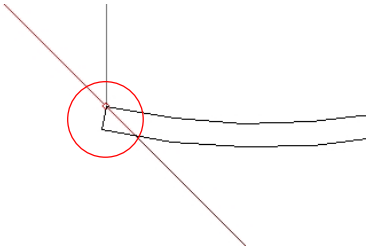
(3)手書きで作成した補助線に塀をドラッグすると、補助線と同じ形の塀が作成できます。

途中で止まってしまう場合は、頂点が途中にある場合です。作成したい形の補助線のみを表示しましょう。

(4)塀を入れ終わったら、表示メニューの「選択表示を解除」をクリックします。



【塀の角が敷地からはみ出したときは・・・】

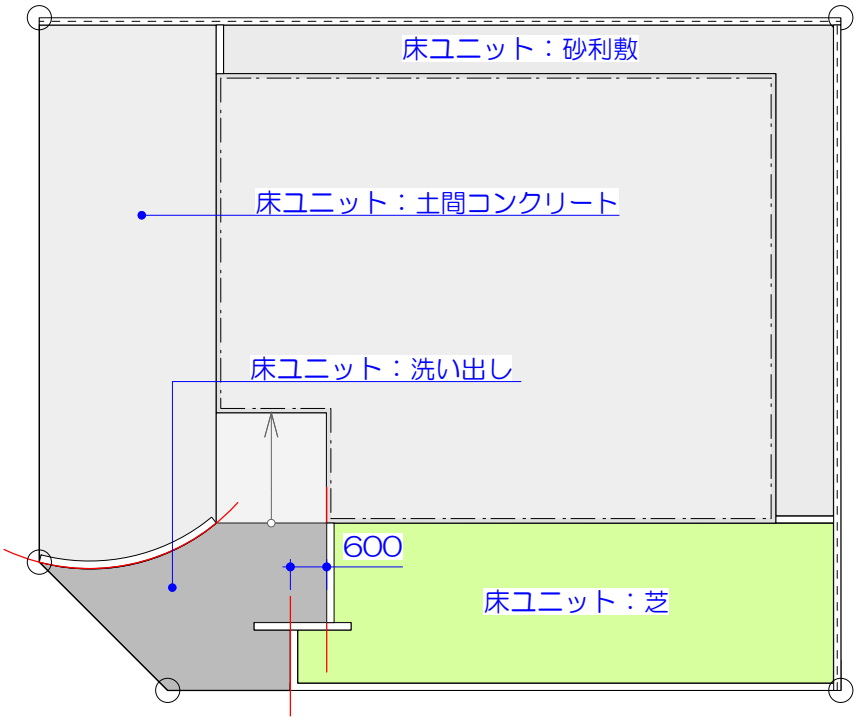


塀が敷地からはみ出す事があります。
このような場合は、塀を切断して形を整えます。

参考　[切断する]を検索

床を配置する

下の図を参考に補助線を入力し、床ユニットを配置してみましょう。

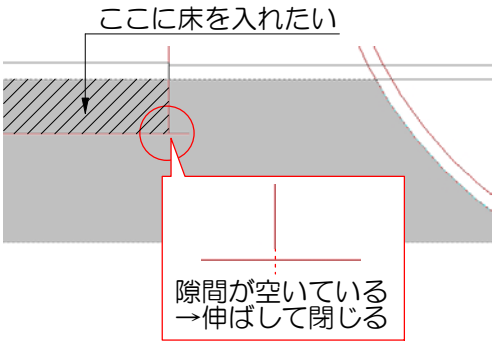


レイヤは
「ユニット」と「補助線」

床はユニットで配置します。
床は補助線や塀、敷地などで囲まれた範囲を判断して形を作ります。

あらかじめ、作成したい床の形の枠を作成しておく必要があります。

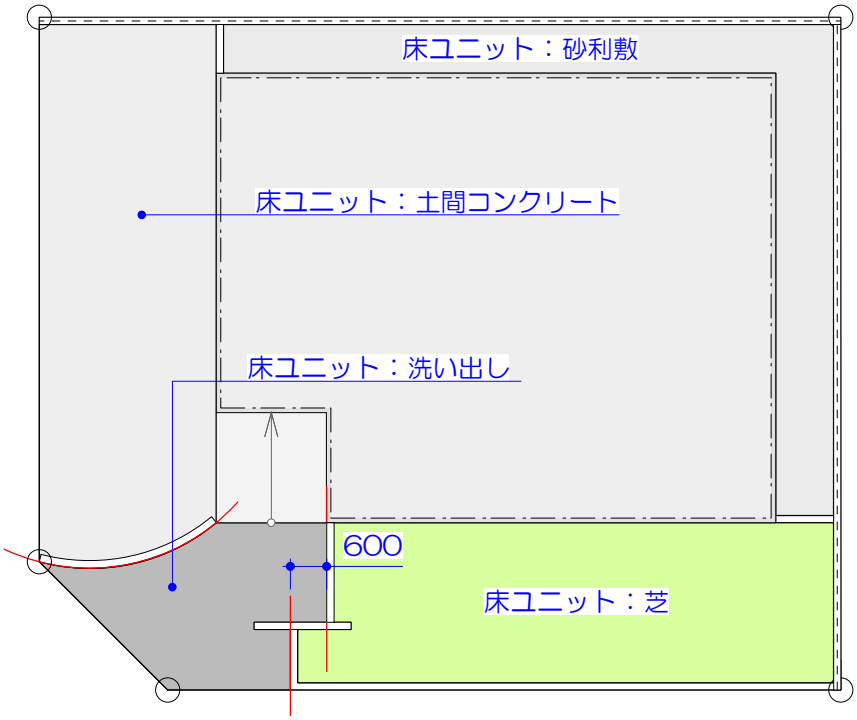
隙間があると、床がきちんと入りません。
枠の役目をする補助線は角に合わせて、少し長めに配置しましょう。



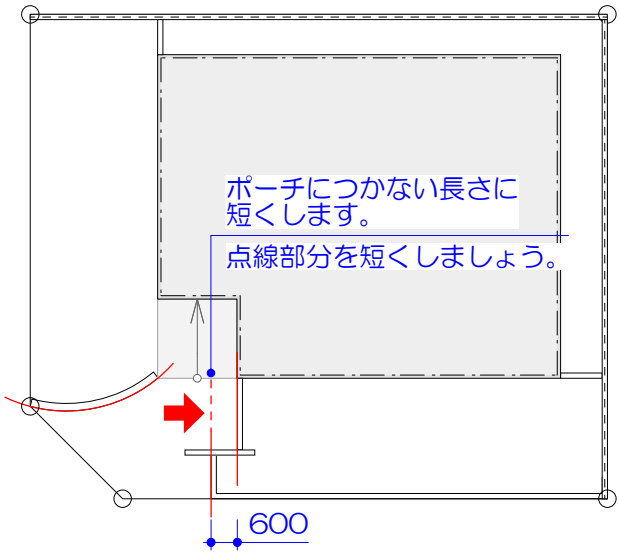
床が入れたい範囲よりも大きくなってしまう場合は、補助線や塀、床の間に隙間ができている時です。
各頂点に隙間ができていないか確認しましょう。

角が閉じているのに、床が入らない場合は補助線を追加してみましょう。

下図のように床を入れてみましょう。



1　補助線配置

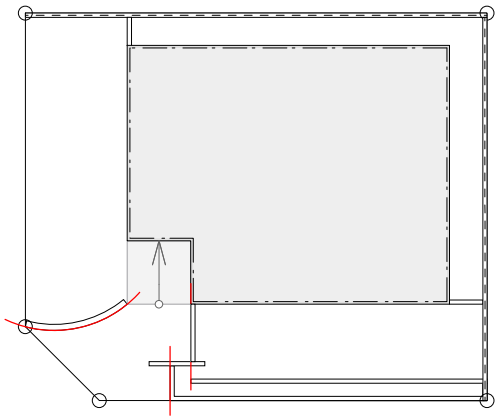


床を配置する為の補助線を配置します。

画面の拡大、縮小をして玄関周辺が見えるようにしましょう。

1-1　レイヤを「補助線」にし、塀で配置した補助線の長さを調整します。

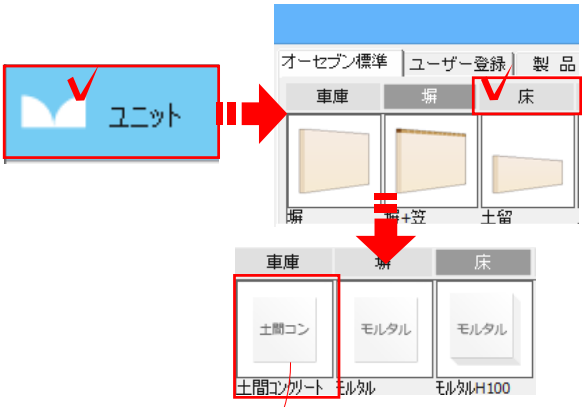
補助線を消してしまった場合は、左図のように配置しましょう。



2　ユニット配置

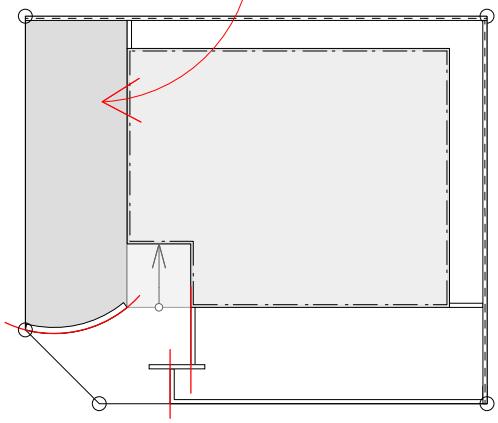
床を配置します。

画面の拡大、縮小をして敷地全体が見えるようにしましょう。



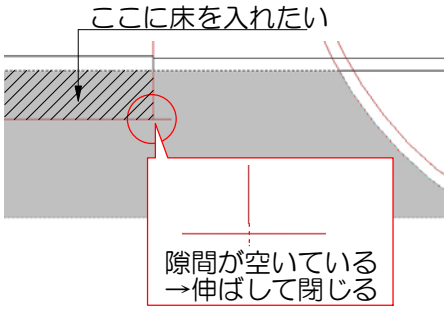
2-1　レイヤを「ユニット」、画面下のスタンプ画面で「床」を選択します。

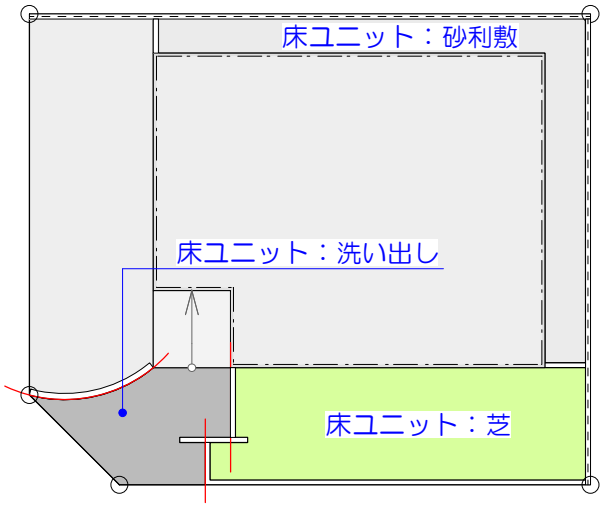
2-2　「土間コンクリート」を左図の位置へドラッグします。



下図のように床が入れたい範囲よりも大きくなってしまう場合は、補助線や塀、床の間に隙間ができている時です。
各頂点に隙間ができていないか確認しましょう。

角が閉じているのに、床が入らない場合は補助線を追加してみましょう。

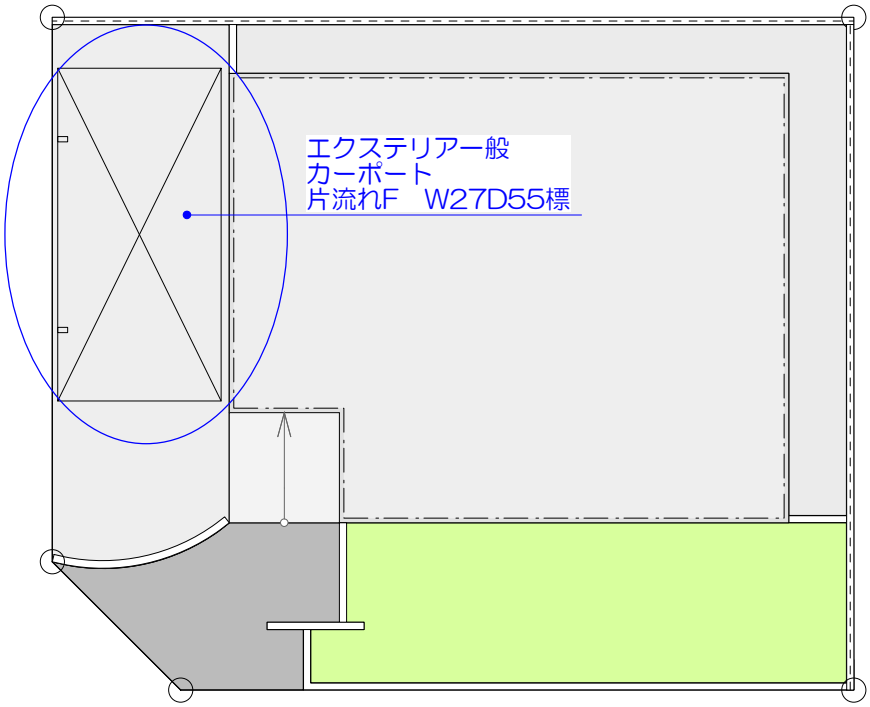


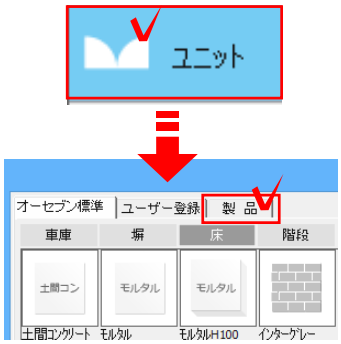


2-3　同じ要領で、左図のように床を配置しましょう。

製品を配置する

下の図を参考に製品を配置してみましょう。



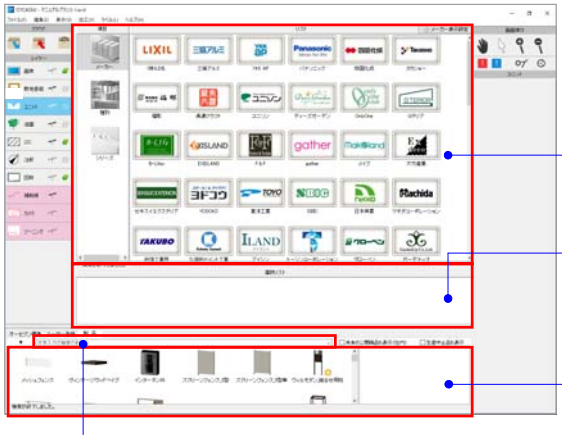


1　製品配置

配置する製品を選択します。

レイヤを「ユニット」にし、画面下の「製品」をクリックします。

左図のような画面に切り替わります。

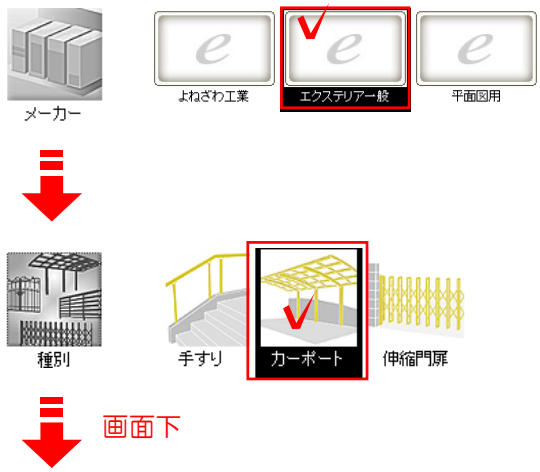


【条件選択画面】
メーカー：製品取り扱いメーカー
種別：種類（門扉・カーポートなど）
シリーズ：製品名称

【選択条件】
現在指定している条件が表示されます。
「クリア」を押すと条件が削除されます。

【製品一覧】
条件を元に検索された製品が並びます。
画面右には選択した製品のサイズが表示されます。

【キーワード検索欄】

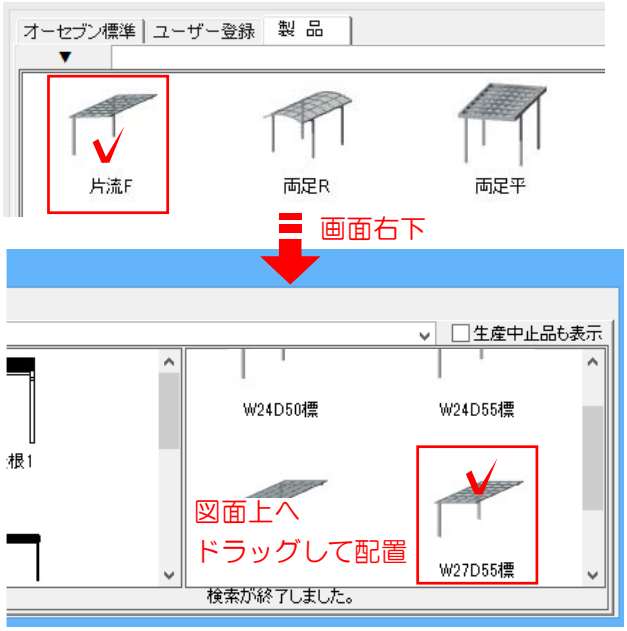


カーポート

エクステリアー般
片流F　サイズ：W27D55標
を選択し、ドラッグして配置します。

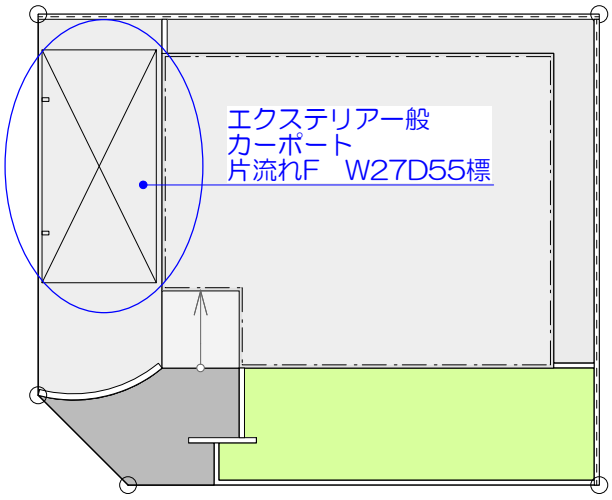
1-1　製品選択画面左上で

メーカー：エクステリアー般
種別：カーポート
をクリックします。



画面下に条件から選択された製品一覧が表示されます。

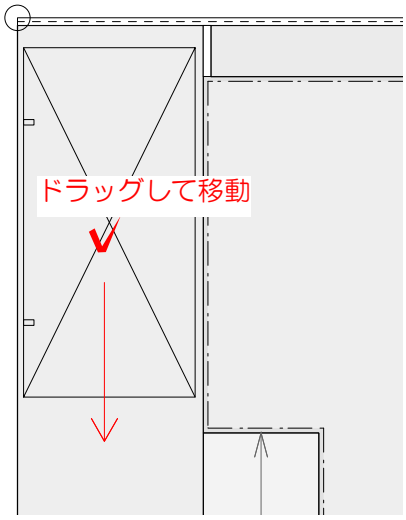
1-2　片流Fをクリックし、画面右下のサイズ一覧から「W27D55標」を図面上へドラッグして配置します。



カーポートが配置できました。

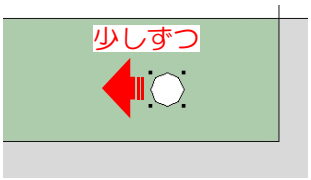
2　製品の位置調整

その1

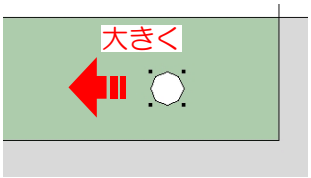


その1
移動させたい製品をクリックして選択（図形の周りに黒い点が付いている状態）し、ドラッグして動かします。

その2



「Shiftキー」+矢印（↑↓←→）



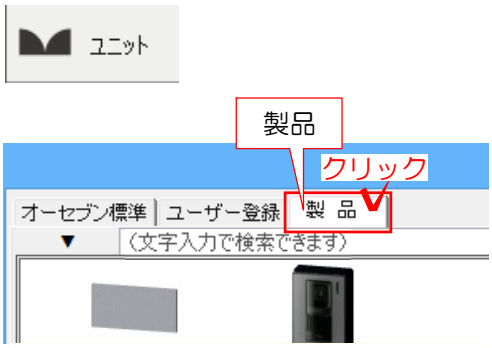
「Shiftキー」+「Ctrlキー」+矢印（↑↓←→）

その2
移動させたい製品をクリックして選択（図形の周りに黒い点が付いている状態）し、Shiftキー+↑↓→←のいずれかを押して少しずつ移動します。

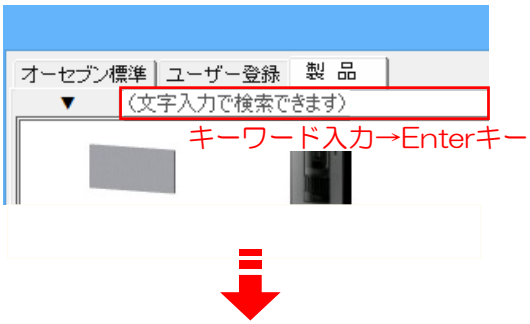
Ctrlキー+Shiftキー+↑↓→←でさらに大きく移動することができます。

この作業を「ナッジ」といいます。

【製品の検索方法】

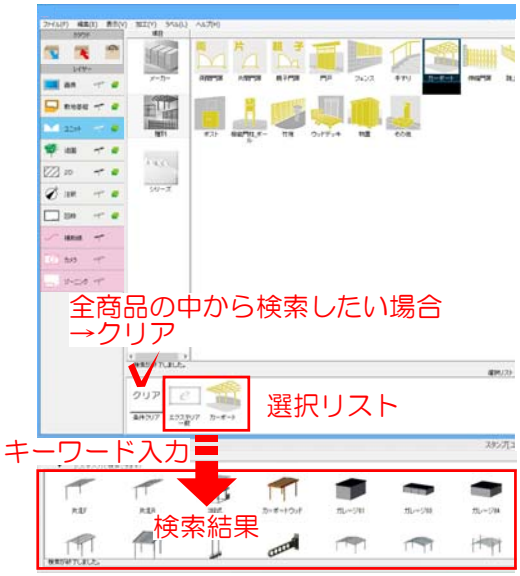


1-1：ユニットレイヤで画面左下の「製品」をクリックします。



1-2：検索欄にキーワードを入力し、Enterキーを押します。

検索結果が画面下に表示されます。

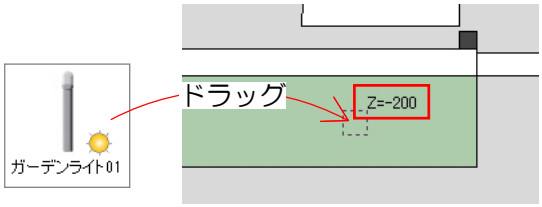


選択リストで条件を選択しているときは…

選択リストでメーカー・種別・シリーズを選択して検索をした場合は、選択リストの条件に当てはまる製品の中から検索されます。

全商品の中から検索したい場合は選択リストをクリアしてから検索しましょう。

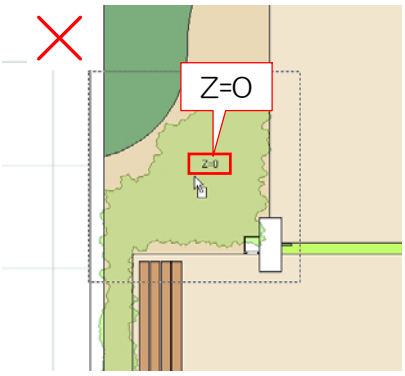
【製品の配置高さについて】



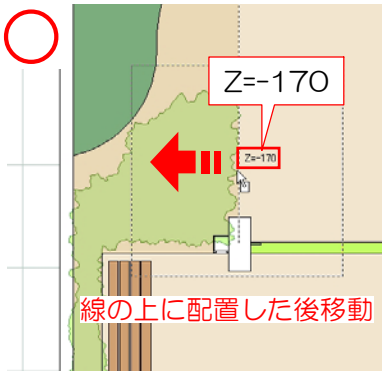
製品を画面上へドラッグして配置すると、左図のようにZ=〇〇と表示される場所があります。

これはZ=〇〇の高さに製品を配置するという意味です。

配置したい高さかどうかを確認してからマウスを離すようにすると、製品が浮いたり、埋まってしまう事を避けることができます。



製品や樹木を配置したい場所で離すと、高さが合いにくい



配置したい場所と同じくらいの線の上に置いてから、移動しましょう。

配置する高さは線や点に反応します。
床の中央などではレベルは宅地の高さを基準にして配置されます。

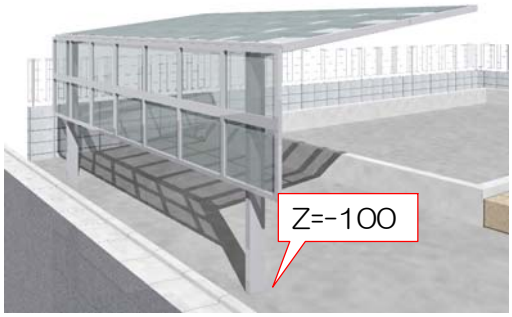
アンジュレーターで作成した築山に置くと下図のように傾斜がついた位置へ配置することができます。

アンジュレーター作成の築山

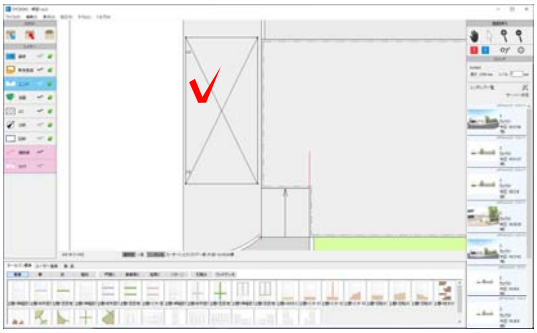
植栽が傾斜高さに合わせて配置できます。

テキスト アンジュレーター　P265

【製品の配置高さ変更方法】



配置した製品の配置レベルを数値入力で変更できます。



1　配置した製品をクリックで選択します。

2　画面右上のレベル入力欄に数値を入力し、Enterキーを押します。